

己亥の歳（曹松）

沢国の江山戦図に入る

生民何の計あつてか樵蘇を樂しまん

君に憑つて話す莫かれ封侯の事

一将功成つて万骨枯る

澤国江山入戦図 生民何計欒棋蘇
憑君美話封侯事 一格功成菌骨枯

解説 己亥の歳は八七九年にあたる。この前の年「黄巢の乱」が起こり、四川・湖南・湖北・安徽・江蘇などの各省は大混乱に陥った。この詩は閩怨詩の形をとって、戦争の悲惨を詠ったものである。

語釈 ※沢国Ⅱ水の豊かなところをさす。ここでは江淮地方をさす。このころ「黄巢の乱」で惨禍を受けた。※戦図Ⅱ戦争の行なわれている地域。※生民Ⅱ人民。人々。※何計Ⅱどんなてだてがあるう、何もない、という反語。※樵蘇Ⅱぎりぎりの日常の生計を営むこと。「樵」はきこり。「蘇」は草刈り。※憑Ⅱ頼りにする。お願いする。※封侯Ⅱ戦争で手柄をたてて大名にとりたてられること。※万骨Ⅱ数多くの兵卒の骨。

通釈 この江淮一帯の山や川も、戦乱のためすつかり荒れてしまった。人々はどんなてだてがあつて、日常の生計を営むことができよう。どうぞあなたにお願いします。戦場で手柄をたてて出世しようなどとはいわないでください。一人の将軍が戦功をたてるとき、数多くの兵卒の骨が戦場に散つて枯れていくのですから。